蔵持市民センター　自主学習会資料　　2024年9月19日

名張歴史読書会　会長　高見　省三

弥生時代　縄文後期後半の晩期　in 名張と近隣地域

弥生時代と言う名前は

弥生町遺跡（東京都文京区弥生）発見された土器が発見地名かれ命名

弥生時代は、食糧生産が始まってから前方後円墳が出現するまでの時代

縄文時代最初の前後の時代は寒冷化だった　縄文時代に入ると、安定して温暖化

縄文時代の終り頃から弥生時代は、寒冷化

縄文時代の食生活　温暖期と寒冷期の違い　多摩市デジタルアーカイブ参考

縄文後期～晩期　寒冷化に伴う民族移動　世界的な寒冷化に伴い民族が移動

貯蔵可能な稲作文化の受容を進める

日本は東日本から西日本へと移動

弥生時代　稲作・食料生産の開始～前方後円墳まで

　年代　従来は弥生時代はBC500年頃だったが、500年も遡る

弥生時代早期前半　　（前10世紀後半～前9世紀中）　水田稲作の始まり　北部九州で開始

最初の弥生集落出現は、板付遺跡や雀居遺跡など、那珂川・御笠川中流域の低い台地上の集落

稲の伝搬　　中国長江下流の起源地から　遺伝子の調査

現在日本最古の水稲耕作遺跡となる佐賀県唐津市菜畑遺跡の他、福岡県博多区板付遺跡などで水田遺跡や大陸系磨製石器、炭化米などの存在が北部九州に集中して発見

橋本一丁田遺跡　方形浅鉢　最古の弥生土器

　外面付着のスス採集　C14年代測定で判明　前１０世紀後半

科学技術の力で年代を調べる

年輪年代測定法

炭素１４年代測定　半減期が5730±40年となり、これを利用して年代を測る

酸素同位体比年輪年代法　酸素18の酸素16に対する存在比は、死ぬと軽い酸素16が順次発散し、葉内の酸素18の濃度が高くなる　過去の降水量の情報が酸素同位体比として年輪セルロースに蓄積されていく　年代が何年の前期後期とピンポイントでわかる。

圧痕レプリカ法　土器圧痕の凹部にシリコーン樹脂を流し込みサンプル　それを調べる

　2024年9月8日読売新聞の文化欄に掲載された。

弥生時代早期後半～前期後半（前9世紀後半～前5世紀）農耕社会の成立　玄界灘沿岸地域

　水田稲作の拡散　九州を出る

　前8世紀末頃：瀬戸内海沿岸　四国・中国地方に前8世紀終わりころ

　前7世紀前に鳥取平野　近畿地方　前6世紀に徳島　奈良盆地　伊勢湾沿岸地方

　前4世紀に東北地域　　前3世紀に関東地域

水田稲作の日本全土へ拡散の情況

大阪平野　前7世紀～前4世紀　　前4世紀の東北地域　稲作拡大

戦いの始まり　前9世紀後半

縄文時代にはなかった武器のより殺害の墓

伊都国歴史博物館展示
糸島市新町遺跡　石の鏃（ﾔｼﾞﾘ）日本最古の戦死　支石墓に左大腿骨に石の鏃が刺さった状態で埋葬

青銅器時代の到来
　福岡県宗像郡津屋崎町　今川遺跡　に到来
　青銅器（銅ノミ）、鉄器（鉄鏃）が今川Ｉ式土器に伴って出土時期的に最古（紀元前８世紀末）

弥生時代前期末～中期前半　（前４世紀後半～前３世紀）
金属器の登場
弥生時代最古の青銅器　前８世末　九州北部　福岡県今川遺跡　銅ノミ
福岡県小郡市三沢北中尾遺跡からは紀元前７世紀頃に遡ると思われる銅斧が出土
本格的な使用　前４世紀中　福岡市吉武高木遺跡
　細形銅剣、銅戈（ｶ）、銅矛、銅鏡　　翡翠勾玉・管玉　鏡・剣・玉がセット　　最古の王墓
武器型祭祀の出現
　福岡市吉武高木遺跡　弥生時代前期末～中期後半の最古の王墓出土
青銅器工房の出現
　熊本市内　八ノ坪遺跡（前３世紀前　Ｃ14）　鋳型の出土　送風管、銅片、銅滓、炉壁　出土
　祭器　　武器形青銅器（銅剣・銅矛・銅戈）と銅鐸

出雲　荒神谷遺跡
　大量の銅矛、銅剣、銅鐸が丁寧に埋っていた。銅剣 358 本、銅鐸６個、銅矛 16 本が出土
　製作時期は、弥生時代前期末から中期中頃
出雲　加茂岩倉遺跡でも出土
　銅鐸３９個（日本最大）島根県立古代出雲歴史博物館に保管　銅鐸の年代は弥生時代中期から後期
　加茂岩倉４号鐸・７号鐸・19 号鐸・22 号鐸・和歌山県太田黒田鐸、加茂岩倉 31 号鐸・32 号鐸・
　34 号鐸・鳥取県上屋敷鐸・兵庫県桜ヶ丘３号鐸、加茂岩倉 21 号鐸・兵庫県気比４号鐸・
　大阪府伝陶器鐸・伝福井（明大１号）鐸で同笵関係
荒神谷遺跡の銅剣　加茂岩倉の銅鐸　不思議
　加茂岩倉遺跡の 39 個の内、大（約 45cm）銅鐸の中に小・約 30cm の銅鐸を入れ子状態が 12 組（24
　個）あった銅鐸 13 個の吊り手中央に　Ｘ印　神庭荒神谷遺跡の銅剣 358 本中 344 本にも　Ｘ印

弥生時代中期の青銅祭器の分布状態
青銅器武器と銅鐸
　銅鐸　　紀元前２世紀から２世紀の約 400 年間にわたって製作、使用　全国で約 500 個
　　兵庫県 56 点　島根県 54 点　徳島県 42 点　滋賀県 41 点　和歌山県 41 点
　　伊賀地区　柏尾、比土、中友生、黒田　伊州出土（伊賀出土と考えられる）
　　銅鐸文化圏の東限は、遠江地域
伊賀市柏尾湯舟出土　弥生時代(後期)・1～3 世紀　青銅製　東京国立博物館所蔵
伊賀市比土出土　弥生時代(後期)・1～3 世紀　青銅製　　埼玉県立博物館所蔵
鉄器の出現　鉄器は青銅器とほぼ同時期に出現
開墾や水田・畑の農作業に用いる

クワ・スキ・先端居着ける刃先、収穫具、木材伐採用の　鉄斧、細部加工用の刀子（トウス）、ノミ、ヤスリ、カンナ　　人の殺傷用武器で鉄剣、鉄矛など
愛媛県大久保遺跡出土の鋳造鉄斧の破片　前５世紀頃で日本最古
九州北部の福岡県朝倉地域で完形の鋳造鉄斧　使用中に割れると、破片を再加工し小鉄器に造り替えて、西日本各地に広まる
弥生時代の前期末～後期前　鉄器の広まり
弥生時代の後期中～終末期　鉄器の広まり

弥生時代中期後半～中期末　（前２世紀～前１世紀）
文明の接触　と　くにの成立
原の辻遺跡　長崎県北方の壱岐島　弥生時代中期から後期（後１世紀）にかけて大規模集落跡
３重の環濠に囲まれた集落域の規模は２４ｈａに達し，その周辺の遺構を含めると，遺跡の広がりは約１００ｈａ　掘立柱建物跡の集中する祭場の一部や多数の竪穴住居跡　環濠の内外では墓域
青銅器・鉄器・木器・骨角器等が多量　大陸の集団との交渉を裏づける土器・青銅器・鉄器等数多
『魏志倭人伝』に記載された「一支国」の中心集落　東アジア諸国との交流の歴史を語る上で重要

愛知県　清洲ジャンクション　朝日遺跡
縄文時代から人々が生活　弥生時代前期には環濠集落が営まれる。当初から環濠が巡っていたのか不明。多くは集落を囲む環濠内に形成される。中期には、墓域が南北居住域の周囲を取り巻く
中期前半の東墓域では方形周溝墓　継続して超大型方形周溝墓が造営
中期後半には再度北居住域を囲む 3～4 条の環濠が巡り、谷にかかる部分には柵・逆茂木（さかもぎ）・乱杭などの強固なバリケードが設けられる。後期には銅鏃や鉄器（斧）が出土
北環濠集落では青銅器が作られた可能性が高い。
南環濠集落では環濠掘削以前に銅鐸が埋納された。
朝日遺跡　環濠が巡っていた　人口増加

伊都国　福岡県前原　糸島市三雲を中心　弥生時代中期後半から終末期にかけて厚葬墓（王墓）
『魏志倭人伝』の中国史書等にみえる倭国の国の一つ
平原遺跡１号墓（平原弥生古墳）の副葬品は日本最大の、直径 46.5 ㎝の大型内行花文鏡（内行花文八葉鏡）4 面、(5 面)、青銅鏡 35 面（方格規矩四神鏡 32、内行花文四葉鏡 2、四螭鏡 1)、ガラス勾玉 3 個、丸玉 500 個以上、瑪瑙管玉 12 個、ガラス管玉とガラス小玉多数個、素環頭大刀（鉄刀）1、などで、それら副葬品を一括して国宝に指定

弥生時代後期（1 世紀～3 世紀）　　邪馬台国の時代　　古墳時代への道
１世紀後半、九州・本州・四国の大半は弥生後期　鉄器の普及と墳丘墓から前方後円墳への成立過程
奴国の中心的遺跡　比恵・那珂遺跡群
水田稲作は初め前９世紀後半から日本最古の環濠集落が作られた。一時期に板付遺跡で繁栄・青銅器文化が発展　前３世紀に比恵・那珂両地区に有力墓が現われる　前２世紀以降に中心が板付からここに移る　倭人伝に登場する奴国中心の遺跡　村の範疇を超えた町的な遺跡
金属器やガラスの一大生産地　鉄器の出土量は他を圧倒　　国内外の交流ネットワークの拠点

鉄器のリサイクル可能にした鍛冶炉が゛山陰･中国山中に出現　1世紀から増え始める
島根県上野Ⅱ遺跡　鍛冶炉　高温処理炉　鳥取県妻木晩田遺跡　鍛冶炉が複数の竪穴に
鳥取県青谷上寺地遺跡　鍛冶炉が複数の竪穴に　村全体で鍛冶工程を組織的にしていた
北部九州や中国地方に見られた鉄製作は　近畿地方ではリサイクル製法は3世紀になる。
近畿で鉄器化が完了するのは3世紀後半以降であるという。倭国乱（2世紀末）以降

吉野ヶ里遺跡　邪馬台国の九州説の中心地　全長2.5kmの壕で日本最大規模の弥生時代の環壕集落跡
弥生時代後期には外壕と内壕の二重の環濠　物見櫓や木柵、土塁、逆茂木がある
弥生時代全時期の多数の住居跡、高床倉庫群跡、3,000基を超える甕棺墓、弥生時代中期の王墓と考えられる墳丘墓　墳丘墓から高度な技術を要する有柄銅剣やガラス製の管玉などが出土、中国大陸や朝鮮半島との交流をうかがわせる　水田稲作、青銅器・鉄器文化を取り入れたムラ
首から上が無いものなどがあり、倭国大乱を思わせる戦いのすさまじさが見てとれる。

倭国大乱
魏志倭人伝の記述　2世紀後半（弥生時代末期）に倭国で起こった争乱　180年頃　8年±数年の争い
魏志倭人伝は、男子王の系統が70 - 80年経過した後に争乱が起こったとし、それまで男王だった
一人の女子を共立して王にした　名は卑弥呼という。
239年に三国時代の魏から与えられた封号は親魏倭王　　生れ１７０年代頃　死２４７年～２４８年
　　子女に台与（宗女）がいる
『後漢書』の「何年も主がいなかった」とある。その前は主（男王）がいた。2世紀後半より始まった地球規模の寒冷化の影響を受けた土地収奪争いの説がある
１～２世紀の古代日本社会では壊滅的な南海トラフ地震・津波に続く社会混乱や争いが続いた。
津波災害は地理地形に左右される。
近年の複数の遺跡調査で、紀元後の数世紀、瀬戸内海周辺の古代日本では小規模な「高地性集落」が出現。沿岸平野部を避けた理由は津波や海からの侵略に対する防御が目的か
2世紀後半から3世紀にかけ、近畿から瀬戸内一帯までの広域に出現した高地性集落が「倭国大乱」とどう関連するのか　　青銅器埋納は、南海トラフ大地震の可能性がある。

2000年前の巨大地震
近畿・中国・四国で生じた弥生中期末の大きな社会変化
近畿の環濠集落の終焉　・ 祭祀の形の大きな変化　・ 銅鐸の埋納　・ 高地性集落の一斉出現
・ 瀬戸内海物流ルートから日本海物流ルートへの変化
など、弥生中期末に生じた大きな社会変化の起因について、巨大地震の影響があった
と考えるとつじつまが合う。
2000年前の津波の痕跡
地震考古学から見た南海トラフの巨大地震
弥生時代中期末から末（紀元前1世紀頃）には，淡路島洲本市の下内膳遺跡で，方形周溝墓の周辺に液状化現象の痕跡が刻まれた．徳島県の吉野川下流の黒谷川宮ノ前遺跡（板野町）では，同じ砂層から少なくとも4回の液状化現象が発生　時期は（1世紀末～ 2世紀前半）
静岡県袋井市の鶴松遺跡でも同じ年代の砂脈が見つかっており，この時期に東海地域も激しく揺れた
堺市の下田遺跡では，黒谷川宮ノ前遺跡の砂脈に対応する年代の砂脈が見つかっている．この年代

は，女王卑弥呼が邪馬台国に共立された頃。
奈良盆地南東部の丘陵に築かれた天理市の赤土山古墳では，墳丘に地滑り跡が認められている．
参考：第 21 回 GSJ シンポジウム　寒川　旭

高地性集落　中期末に「一斉に、爆発的に」出現
2000 年前の地震による 60m以上の遡上津波を経験した弥生人は高台へと移住したのであろうと推測
倭国大乱の頃の高地性集落
大阪府　池上・曽根遺跡の動向
唐古・鍵遺跡と並んで近畿を代表する大環濠集落、池上曽根遺跡は弥生中期に栄え、巨大な神殿ある集落。この集落が中期末に急速に衰退

近畿地方中央部の鉄が普及するのは３世紀になる
倭国大乱の時の鉄利用　２世紀後半　　九州北部　依然として一番多い
次に山陰地方　種類も量も豊に利用　　近畿北部　日本海沿岸　リサイクル可能鍛冶炉や舶載鉄器をまねたさまざまな鉄器を作る
少ないのは九州中部以南　限定的　　瀬戸内海　種類と量は限定的
近畿中央部　少しは増えているが少ない

倭国乱以前は惨憺たる情況
倭国乱の結果　３世紀になると九州北部はそのままで、瀬戸内海・近畿・東国まで鉄が広まる。
なんらかの政治的意図があった。

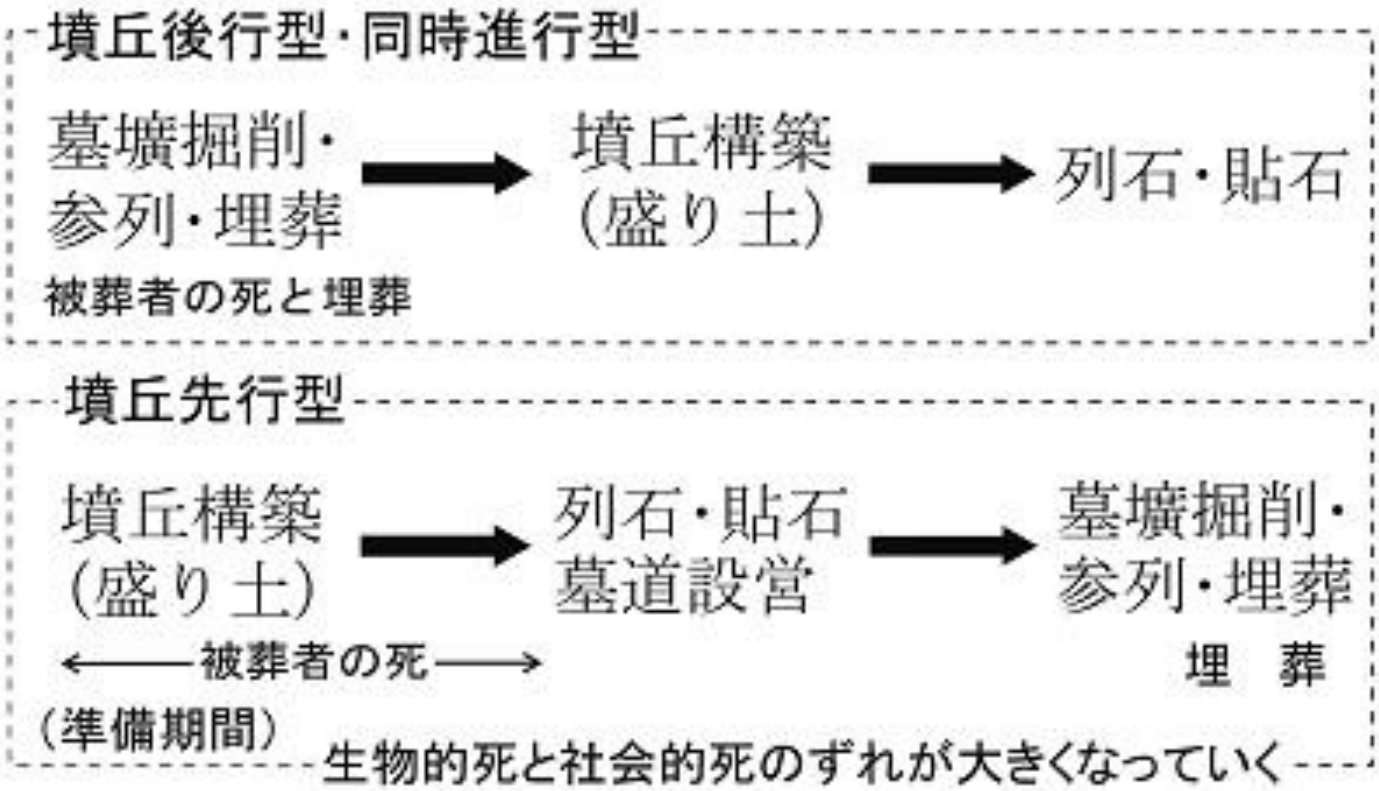
倭国大乱の前から変化しはじめた各地のシンボル
漢鏡の時期別分布の変化
倭国大乱（2 世紀後半）　後漢は１８４年の黄巾の乱以来、混乱　三国時代へ
倭国　女王卑弥呼を共立・・・倭国連合国化

私の考え
南海トラフ大地震や倭国大乱で従来の祀りの要だった各地の銅器・銅鐸の祭器を埋納しあらたの鏡を祀り、共通化　そして大陸の混乱の影響を避けるために大和に卑弥呼（シャーマン）を戴き各国協力のもと邪馬台国として国土の防衛と、瑞穂の国にしていく

纏向遺跡　　広範囲な人々が結集　各地の土器が出土
箸墓古墳　　共通祭祀での前方後円墳

埋葬方法の共有化　前方後方墳へ
広島大学野島教授の調査で明らかになった　弥生時代の広島県北部の三次（みよし）・庄原（しょうばら）地方であり、そこで生まれた四隅突出型の墳丘墓（弥生墳丘墓）が山陰地方を経て、形を変えながら伝わった最終的な形態が前方後円墳になるのを明らかにした　中国山地は、日本の古代社会である弥生時代（紀元前 4 世紀～紀元後 3 世紀中頃）のなかでも、もっとも古く墳丘をもつ墓（墳丘墓）が発達する地域の一つ
古墳時代（3 世紀中頃～6 世紀）に成立する前方後円墳以前のルーツとなる墳墓である

墳丘墓の構築方法の変化の過程
楯築墳丘墓　　弥生時代後期後葉（2 世紀後半）
楯築遺跡内に保存されている弧帯文石　　纒向遺跡出土の弧文石
特殊器台　盾築古墳出土　新見市　西江遺跡　弥生時代後期後葉（2 世紀）吉備で生まれた
弥生時代中期末に築造された佐田峠３号墓は墓穴を掘り、遺体の埋葬を行った後に、盛土を、これを繰り返したのち最終的に墳丘を成形する「同時進行型」の構築方法であった。
後期初頭となる佐田谷１号墓は土盛りを行い、墳丘を形成してから、墓穴の掘削・埋葬を行う「墳丘先行型」であることが判明



西谷古墳群　四隅突出型古墳　島根県出雲市大津町西谷
纒向遺跡とその周辺　　纒向遺跡に各地の土岐が出土

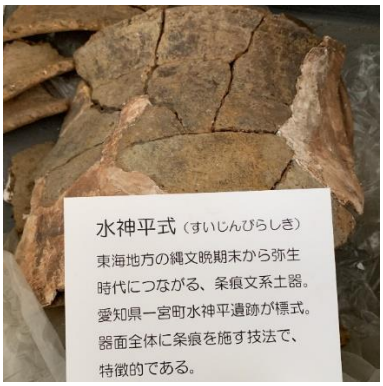
邪馬台国　大和説（奈良県）説
桜井市　纒向遺跡箸墓古墳　卑弥呼の墓と言われ共立して作った古墳
年代は、出土した土器と、土器に付着した炭化物による炭素 14 年代測定法により、邪馬台国の卑弥呼の没年（248 年頃）に近い 3 世紀中頃から後半とする説　『日本書紀』に作成時のことを、大坂山の石を運んでつくった。山から墓に至るまで人々が列をなして並び手渡しをして運んだ。　とある
まさに共立である。

日本中に弥生文化が広がる　　名張の周辺は
突帯文土器
九州北部から水田稲作が開始　紀元前１０世紀後半
突帯文土器にコメの圧痕土器が発見　　圧痕土器は土器の小さな窪みに、歯医者で使われる青いかたどりのようなのを中に入れて　圧痕を顕微鏡で確認・・・レプリカ法
福岡市板付遺跡で水田遺構や木製工具を発見
突帯文土器が東に伝搬
奥出雲では前 11 世紀の縄文時代晩期後半に出現　近畿で前１０世紀後半に兵庫県口酒井遺跡でイネの圧痕が見つかり、前９世紀後半に伊勢湾地域に拡大　弥生時代の本格化　突帯文土器も名張に登場

名張の縄文時代後期から弥生時代の遺跡

土山遺跡から稲作最初の谷間に水田あと
土山遺跡　水神平式土器
奥出遺跡　突帯文式土器　長原式　縄文晩期末
辻堂遺跡　突帯文式土器　馬見塚式土器
　　愛知県一宮市
　　弥生式土器も出土
突帯文土器　　奥出遺跡　　縄文晩期末の土器　　弥生時代初期もある
　　縄文晩期と弥生初期が混在する遺跡で重要
突帯文式土器　長原式　縄文晩期末　長原式土器は大阪市平野区の長原遺跡出土
　　長原式土器　大阪で水稲栽培がはじまったころの土器　土器の外側には、
　　米や籾が押しつけられた跡　　圧痕レプリカ法　弥生時代前期前葉土器と共伴出土
人参峠　白早稲　土山遺跡
白早稲遺跡　縄文草創期から弥生時代末から古墳時代前半期　弥生時代の掘立住居
人参峠遺跡　縄文時代から弥生時代から古墳時代から中世　　弥生時代前期の土器

土山遺跡から稲作最初の谷間に水田あと　弥生時代前期中頃土器と水神平系の土器が見つかる
初期農耕が谷水田を基盤としたと思われる



下河原遺跡　　縄文　弥生時代　の複合遺跡
セットで出土　突帯文がある　弥生中期前半　縄文を施す弥生土器
伊勢湾地方の地域に限られる土器で西の限界　縄文時代の柄鏡型住居の上層の弥生時代遺跡から出土
方形周溝墓出土　土器
古い時期は、東海・伊勢湾系が主流　のちに近畿系の土器が圧倒する

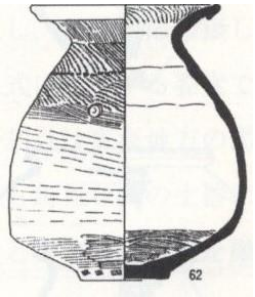
下川原遺跡　弥生時代で、縄文晩期末で土山遺跡・奥出遺跡で弥生前期後半
の土器と共伴して出土　人参峠遺跡では弥生時代前期の土器が出土。弥生時代中期で谷を出てくる
下川原遺跡で生活　弥生後期から後半から古墳時代まで続く　奥出・土山⇒白早稲⇒人参峠
方形周溝墓と 30 数棟の住居　一時期 7～8 棟集落
東西居住グループ　弥生時代中期に竪穴住居が 40 棟を下らない所もあった。一時期 12～16 棟規模

奥出遺跡　夏見字奥出　　縄文・弥生・古墳
東側の斜面に弥生時代後期末の竪穴住居が２棟　蔵持黒田遺跡とほぼ同時期
東側斜面から廃棄物の土器片が多数出土　弥生時代前期の土器と晩期末の土器が共伴する
この事象は土山遺跡や辻堂遺跡にも見られる。　手炙り型土器も出土　　後に蔵持黒田遺跡で紹介

黒石遺跡
宇多川東岸の河岸段丘に発達
弥生時代中期に方形周溝墓　弥生時代後期まで続く
弥生時代後期末には竪穴住居が出現する　古墳時代後期にも竪穴住居　飛鳥　奈良時代へと続く
浦遺跡　　箕輪中村字浦　　弥生時代中期後葉　　後に壬申の乱で隠駅屋に比定
西遺跡　瀬古口字西　弥生時代後期から古墳時代の溝に土器　　弥生時代後期の手炙り土器　鉢
塚原遺跡　弥生時代の後期　　邪馬台国と同時代　　名張市郷土資料館　展示
　2000 年の道路開通工事により、発掘が始まる。この時の調査で判明したこと。
　弥生時代後期の遺跡　土器が多量　大きな溝に囲まれた住居　外側には住居は存在しない。
　弥生時代後期の後には集落はなくなった。古墳時代後期には規模は小さな集落があった。
　吉野ヶ里遺跡の溝と比べる
蔵持黒田遺跡　桔梗が丘南　３号、４号公園　焼け後の跡　のろしとして使った可能性
　蔵持黒田遺跡には 30 個以上出土している。
　全国 700 個以上出土なかで　めずらしい
　利用方法は祭に使われていた意見が主です。
　　用途は不明
　蔵持黒田遺跡の他　出土地
　奥出遺跡　西遺跡　白早生遺跡　井出城屋敷遺跡
　東町遺跡　溜り遺跡　など出土

辻垣内遺跡　赤目地方　円形竪穴住居
中戸遺跡　方形周溝墓　１世紀後半頃
城屋敷遺跡　井出地区　宇多川の左岸で扇状地を形成。対岸は赤目地区　遺構は西地区、東地区　中央はある時期に、大きく撹乱された土砂崩れてがあった。以降は地盤の安定する微高地に移動　集落終焉

遺物は縄文時代の後期や晩期の土器片や石器、
中心的な遺物は弥生時代末期の土器　手炙土器も複数出土
竪穴住居に遠江（とうとうみ)、天竜川流域から搬入された
「菊川式」に相当する壺が見つかり、東海地方との交流が見られる。



御所垣内遺跡　　安部田
宇田川左岸の名張断層崖に沿って、宇田川沿いに山崩れ
があり、扇状地を形成する。そこに立地する遺跡　発掘すると、弥生時代中期後半の短期間の遺跡
住居域・倉庫域・墓域に分離する集落構造であった。
弥生時代中期の円形竪穴住居・掘立柱建物（高床倉庫）等が確認された。
大量のサヌカイト石器、石包丁・弥生時代中期後半の土器が出土している。
平野部大規模集落であり、高地性集落に似通った集落

いよいよ名張にも　　古墳時代が訪れる
名張に遺跡はまだ沢山あります。
この辺りで弥生時代とします。
終り